



大地申第2号
第1回:9月14日

『JR東労組大宮地本第24回定期大会』の発言に 基づく申し入れ【首都圏本部】団体交渉を開催！①

総合車両センター・車両センターで発生している車両の安全に関わる事象について議論を行う！

1. 繰り返し発生する事象の根絶件名をはじめとして、事象の発生が続いていることから、ヒューマンエラー発生0を目指したトライゼロの取り組みを定着させるため、「4M4E」分析手法等による徹底した原因究明により、安全第一の職場を構築すること。

前段で「新緑り返し発生事象・トライゼロ」について議論を行う

組:繰り返し発生する事象の根絶に向け「トライゼロ」がスタートしたが、現状0にはなっていない。なぜ事象が発生するのか原因を深掘りし、対策を立てるべきであるとする。

会:原因究明においては核となることを職場で議論し、それをモビリティサービスユニットに届けて頂き議論したい。

組:新緑り返し発生事象の発生件数は？ → 会:今年度4月から7月で22件発生している。

組:トライゼロに関する発生件数は？ → 会:5月期から8件発生している。

組:発生事象に対する首都圏本部の認識は、どのように考えているか？

会:多面的な考えで根絶しなければならない認識。4Mに基づいた観点で事象を捉えないと表面的な対策になる。

組:ヒューマンエラーを防止するにあたって、首都圏本部で取り組んでいることは？

会:現場主体で話し合うことが大前提。私たちが一方的に押し付ける対策では根付かない。現場で話し合った内容が、立てた対策として道筋が通っているかを見ていき、フォローしていく。

組:現場で対策を立てそれを見ていくなかで、首都圏本部ではどのようにフォローしているか？

会:CSを重ね、深掘りしていく事で真の原因にたどり着くと考える。

組:現場の報告を基に問いかけて、真の原因を確定させていく事か？ → 会:その通り

首都圏本部として、多面的な分析・現場でのCSの深度化・現場で出した

実態を基に、繰り返し事象・トライゼロの撲滅を進めていく事を言及！

①「AG48速度発電機調整板の誤挿入」について議論を行う

※会社回答で「多面的に原因究明を行い…」と言及している

⇒事象の背景(出張作業が発生した理由・作業者がテプスゲージを使った経験の有無など)を答えられず！

会社が多面的な事象把握をし切れていない事を指摘！

組:現場から話を聞いたとの事だが、現場の事が首都圏本部に繋がっているのか？現場の事が伝わっていない認識。

会:現場の声が届いていないという事は感じる。把握することが必要と感じる。

組:会社の4M4Eを見たが人の対策に集約されていて多面的でない。背後要因を考える必要がある。

人が色々な事をやる中でエラーも発生するが、それをフォローする事も含めて多面的に分析すべき。

発生した事象に対し現場の実態を把握し、多面的分析を行いフォローする事を求める！

組:事象の背景として何日か1回の頻度でAG48の調査を出張で行っていた。その都度デジタルゲージを協力会社から借りる手配が必要。出張先でより正確な作業を行う観点では、デジタルゲージをJRで配備する事を求めたい。

会:予備として必要であれば確保すべき。

基本は治具を扱えるように教育をしていく。なお、必要であればデジタルゲージを予備として確保する！

職場からの原因究明議論で安全な職場をつくり出すぞ！

②に続く



大地申第2号
第1回:9月14日

『JR東労組大宮地本第24回定期大会』の発言に 基づく申し入れ【首都圏本部】団体交渉を開催！②

総合車両センター・車両センターで発生している車両の安全に関わる事象について議論を行う！

1. 繰り返し発生する事象の根絶件名をはじめとして、事象の発生が続いていることから、ヒューマンエラー発生0を目指したトライゼロの取り組みを定着させるため、「4M4E」分析手法等による徹底した原因究明により、安全第一の職場を構築すること。

②「E257系制輪子コッタ未挿入」について議論を行う

組:制輪子コッタ未挿入について議論したい。原因は何か？

会:原因は追求しきれていない。しかし現実として事象が発生しているので調査している。

組:未挿入と言っているが作業者は機能保全時に現物確認しチョークチェックをしている。コッタが3日後に落ちていた事が発見されたが車両は特定出来なかった。その後発見された。落失の可能性は考えなかったのか？

会:落失の可能性や部外者の立ち入りなども考えている。

現時点で「コッタが落ちていた」事象に対し、ヒューマンエラーと断定できない事の認識を一致！

③大宮総合車両センター「緊急事態宣言」について議論を行う

※原因がヒューマンエラーと確定されていないにも関わらず、大宮総合車両センター「緊急事態宣言」で他のヒューマンエラー事象と一緒に「E257系制輪子コッタ」の事象が書かれている。

組:まだ原因究明されていない中でヒューマンエラーとほぼ断定され周知されている。これについてどう思うか？

会:書き方に対して誤解を生むとは感じる。

組:最初に緊急事態宣言が掲示された時、大宮総合車両センターの現場では多くの人が「挿入忘れ」だと思った。ヒューマンエラーと決めつけるかのような書き方に、東大宮センターの社員は会社に対し不信感しかない。「緊急事態宣言」からコッタの事象を削除し再度事実を周知しない限り、事故隠しを誘発してしまうのではないかと思う。検討して欲しい。

会:事実関係の吸い上げは正しくしたい。大宮総合車両センター内でこのような声がある事は伝えていく。

「緊急事態宣言」の表現など社員に誤解が生じる事の無いよう、

大宮総合車両センターと話をしていくことを確認！

④川越車両センターで発生した事象について議論を行う

※川越車両センターにおいて、保安装置基盤取り換え作業時に車両流転が発生。

※昨年8月に開催された川越車両センターファミリーデーにおいて、イベント終了後に本来撤去すべきであった手歯止めを撤去失念した事象も発生。(駐車ブレーキ使用のため、手歯止めは通常使用せず)

→これらの事象の再発防止対策について議論を行う。

組:対策によっては形骸化する事もあるのではないかと。対策のための対策になっている。

会:現場で声を出して上手く作業が出来るようにして欲しい。

組:「扱いを変えていいよ」と管理者は言うが、声を出しても「何で変えるの」となる。話は進まない。

会:実態に合わない対策を無理やりやることは違う。自個所で議論して管理者に伝えて進めて頂きたい。

現場の議論で実態に合った事象の対策を行っていく事を一致！

正しい現状把握から原因究明議論を推し進め、安全な職場をつくり出すぞ！

第1項の議論を終了！2回目交渉で第2項の議論を行います！